

〈論文〉

名前を正しく読むことはなぜ難しいのか

Why Reading Japanese Names Correctly Is Difficult

荻原 祐二
Yuji Ogihara

要旨

先行研究では、名前を正しく読むことがどのようにそしてどの程度難しいのかは説明されていた。しかし、名前を正しく読むことがなぜ難しいのかについての説明は十分に行われていなかった。そこで本論文では、名前を正しく読むことが難しいのは、漢字の読みが分からないという理由と、可能な読みが複数あり、どれが正しい読みか分からないという理由の、少なくとも2つの理由があることを解説した。一般的には、漢字の読みが分からない場合が想定されがちであるが、可能な読みが複数あるために正しい読みが分からない場合も考慮されるべきである。名前を正しく読むことはなぜ難しいのかを正確に理解することで、日本における名前の特徴やその変化、人々に与える影響などを明らかにすることに貢献する。また、名前を正しく読む難しさが生じている理由を明らかにすることによって、その難しさを低減させることにも貢献する。

Abstract

Previous research has explained how and to what extent Japanese names are difficult to read correctly. However, why Japanese names are difficult to read correctly was not explained sufficiently. Therefore, this article presents two reasons: 1) some Chinese characters are difficult to read, and 2) some Chinese characters have plural possible readings, causing cases where the correct reading is difficult to choose. Generally, it might be easy to think first of the cases where some Chinese characters are difficult to read, but the cases where the correct reading

of some Chinese characters with plural readings is difficult to choose should also be considered. Understanding why Japanese names are difficult to read correctly contributes to revealing the characteristics of Japanese names, their historical changes, and their influences on people. Moreover, clarifying why Japanese names are difficult to read correctly can decrease the difficulty itself.

キーワード: 名前・読み・表記・命名・名乗り

Keywords: name, reading, writing, naming, nanori

1. 名前を正しく読むことの難しさとその理由

読みがなやふりがなが明記されていない日本人の名前¹を初見で正しく読むことは難しい (e.g., 小林, 2009; 大藤, 2012; 坂田, 2006; 佐藤, 2007)。ここで「名前を正しく読む」とは、「命名者が与えた通りに名前を読む」という意味で用いる。漢字には複数の読みがあり得るため、漢字を用いた名前に「客観的に正しい読み」は存在しない。あくまで、命名者が決めた読みと一致した読み方ができるかどうかということになる。名前を正しく読むことがいかに難しいかは、日本で生活したことがある人からすれば容易に想像ができるであろう。少なくとも 1979 年から 2018 年の間の 40 年にわたって個性的な名前が増加していることもあり (Ogihara, 2021a; Ogihara, 2022a; Ogihara et al., 2015; Ogihara & Ito, 2022)、近年生まれた新生児や子どもの名前を正しく読むことは難しい (荻原, 2015; Ogihara, 2021b)。

実際に、Ogihara (2021c) は、2004 年から 2018 年に与えられた新生児の名前を分析し、同一表記に多くの読みが存在することを実証的に示し、名前を正しく読むことの難しさを明らかにした。さらに Ogihara (2022b) は、Ogihara (2021c) に補足する形で、名前を正しく読むことの難しさについてさらに詳細な説明を加えている。

1.1 名前を正しく読むことはなぜ難しいのか？

しかし、そうした難しさが、なぜ生じているのかは十分に説明されていない。そうした難しさが現実存在し、どのようにそしてどの程度難しいのかは説明されているが (Ogihara, 2021c; Ogihara, 2022b)、その理由の包括的な説明は行われていない。

1 本論文では、「名前」と表記した際には、氏名の「名」(ファーストネーム・パーソナルネーム)を意味する。

日本における名前の特徴やその変化、人々に与える影響などを明らかにするためには、名前を正しく読むことはなぜ難しいのかという現象を正確に理解することが重要である。また、名前に用いられる漢字とその読みの関連を明らかにすることによって、漢字とは何か、日本語とは何かといった問いについても情報を提供することができる。それは、日本だけでなく、中国や韓国を含めた東アジア圏や、シンガポール・マレーシア・ベトナムなどの東南アジア圏を含めた漢字文化圏全体にとっても意義がある。そして、名前を正しく読むことの難しさが生じている理由を明らかにすることによって、その難しさを低減させることにも貢献する。

1.2 本論文

ここで本論文では、名前を正しく読むことはなぜ難しいのかについて説明する。「漢字の読みが分からないために読むことが難しい」と「可能な読みが複数あり、どれが正しい読みか分からないために読むことが難しい」という、少なくとも2つの理由がある。それぞれが具体的に何を意味しているのかについて、以下に述べる。

2. 漢字の読みが分からないから

第1に、漢字の読みが分からないために、名前を正しく読むことが難しい場合がある。漢字の読みには、音読み・訓読みがある。こうした読み方は日常的な他の文脈でも用いられるが、その読みが分からないこともある。例えば、人名用漢字である「侃」(カン、つよい)や「匡」(キョウ、コウ、オウ、すくう、ただす)などは、その読みが一般的には難しいかもしれない。

また、名前に用いられる漢字には、名乗り(名乗り訓・人名訓)という、一般的な音読み・訓読みとは異なる慣用的な読み方が存在する。例えば、「和」を「かず」と読み、「和也(かずや)」や「和子(かずこ)」としたり、「智」を「とも」と読み、「智宏(ともひろ)」や「智子(ともこ)」とする読み方が挙げられる。これらは、一般的な音読みでも訓読みでもないものの、漢字を日本語に翻訳する過程で使用されることが増え、次第に慣用的なものとして認識・共有されるようになったとされている(佐藤, 2007)。よって、小学校や漢字の参考書等の一般的な漢字学習の場面では接触することが少ない²。また、名前や一部の固有名詞以外ではほとんど用いられず、現在

2 漢字学習の場面よりも、むしろ日本史や地理などの学習において偶発的に学ばれることが多いようである。例えば、「朝」を「とも」と読むことは、平安・鎌倉時代の源氏の武将の名前から学習されているだろう(「頼朝(よりとも)」・「実朝(さねとも)」・「義朝(よしと

ではあまり使用されていないものや市民権がないような読みもあるため、それらを正しく読むことが難しい場合も多い。実際に、「和」を「かず」と読む名乗りは現在でもしばしば見られるが、「あつし」や「むつぶ」といった名乗りを適切に読むのは難しいかもしれない。同様に、「智」を「とも」と読む名乗りは現在でもしばしば見られるが、「あきら」や「まさる」といった名乗りを適切に読むのは難しいかもしれない。佐藤（2007）によれば、名乗りに関する書籍は少なくとも平安時代からあり、名乗りの読みの難しさについては江戸時代から指摘され、その手引書が出現するに至っている。

さらに近年では、漢字の一般的な音読み・訓読みと慣用的な名乗りという読みだけでなく、これまでにはほとんど見られなかったような個性的な読みを与える場合がある（レビューとして、萩原, 2015; Ogihara, 2021b）。名前に用いられる漢字の読みには制限がなく、どう読むかは自由である。そのために、命名者が与えた通りの読み方をすることが難しい名前が生まれる。例えば、「海」を「まりん」と読んだり、「光」を「らいと」と読むといった外国語読みをする場合が挙げられる。また、「星」を「あかり」と読んだり、「月」を「らいと」と読むといったイメージ読みをする場合もある。他にも、表記はされるが読まないという場合もある。例えば、「大空」を「そら」と読んだり（「大」は読まない）、「心結」を「こころ」と読む（「結」は読まない）場合がある。名前に漢字が用いられている場合、それぞれの漢字に読みがあると考えるのが一般的であるため、読まないという可能性を考慮することは難しい。

この難しさを低減するには、一般的・慣用的な読みだけでなく、個性的な読みの規則性を学習することが挙げられる（Ogihara, 2022b）。個性的な読みには規則性があることが多く、その規則性を学習することで、その規則性を用いて予測し、名前の読みが全く思い浮かばないという状況は減らすことができるだろう³。実際に、先述の名乗りは、元来は個性的な読みをしていたものが、多くの人々に共有されることによって、慣用的なものとしてみなされるようになったとされている（佐藤, 2007; 法務省, 2022）。

も)」など)。また、「真」を「ぎね」と読むことは、菅原道真（みちぎね）や今川氏真（うじぎね；今川義元の子）から学習されているであろう。

3 しかし、規則性は複数存在し、どの規則が応用されるかの予測は困難であり、かつ新たな規則性も生まれるため、この難しさを完全に解消することは容易ではないと考えられる。

3. 可能な読みが複数あり、どれが正しい読みか分からないから

第2に、可能な読みの選択肢が多く、どれが命名者によって与えられた読みか分からないために、名前を正しく読むことが難しい場合がある。漢字を読むことはできるが、その可能な読みが複数存在するために、どれが正しい読みなのか分からない状態を意味する。そして、複数の漢字で構成された名前の場合、それぞれに可能な読みが複数あり、その組み合わせが生じるため、正しい読みを推測することがさらに難しくなる。

「名前を正しく読むことが難しい」と言われると、先述の「漢字の読みが分からないために読むことが難しい」状態が想像されることが多いかもしれないが、現実には漢字の可能な読みが思いついても、名前を正しく読む難しさが解消されるとは限らない。むしろ、漢字の可能な読みがより多く分かるほど、その中から正しいものを選ぶことは困難となる。

実際に、近年の名前には多くの読みが存在することが、データを基に報告されている。例えば、近年人気のある表記である「大翔」には少なくとも18種類の読みが、「結愛」には少なくとも14種類の読みが与えられている (Ogihara, 2021c)。これらの表記に対して、どの読みが命名者によって与えられたのかを初見で正しく推測することは容易ではない。

この難しさを低減する方法のひとつに、事前情報を把握しておくことが挙げられる (Ogihara, 2022b)。例えば、表記に対する読みの選択肢と各選択肢の相対的出現頻度を知っていれば、正しい読みを選択できる確率は高まる。「大翔」という表記に対してどういった選択肢があるのか、そして「ひろと」や「はると」が多く、「ひろき」や「はるき」は割合としては少ない可能性が高い (Ogihara, 2021c) ということを知っていれば、現実には「大翔」という表記に遭遇した際に利用できる。同様に、「結愛」は「ゆあ」や「ゆいな」と読まれることが多く、「ゆら」や「ゆうみ」は割合としては少ないことが既知であれば、この情報を応用できる可能性がある。また、兄弟姉妹で共通した読みを与えたり (例えば、「ひろと」と「ゆうと」、「さな」と「みな」)、両親や祖父母の読みと共通した読みを与えるパターンが存在するため、兄弟姉妹・両親等の名前が既知であれば、正しく読める確率は高まる。しかし、こうした事前情報がない場合、それぞれの可能な読みは独立で、確率分布も未知となるため、推測は一般的に困難である。

4. まとめ

先行研究では、名前を正しく読むことがどのようにそしてどの程度難しいのか（Ogihara, 2021c; Ogihara, 2022b）は説明されていたが、名前を正しく読むことがなぜ難しいのかについての説明は十分に行われていなかった。そこで本論文では、名前を正しく読むことがなぜ難しいのかについて説明した。本論文では、名前を正しく読むことが難しいのは、漢字の読みが分からないという場合と、可能な読みが複数ありどれが正しい読みか分からない場合という、少なくとも2つの理由が存在することを解説した。一般的には、前者の漢字の読みが分からない場合が想定されがちであるが、後者の読みが複数あるために正しい読みが分からない場合も考慮されるべきである。名前を正しく読むことはなぜ難しいのかを正確に理解することで、日本における名前の特徴やその変化、人々に与える影響などを明らかにすることに貢献する。また、その難しさが生じている理由を明らかにすることによって、その難しさを低減させることにも貢献する。

実際に、それぞれの難しさを低減させる方法についても言及した。漢字の読みが分からない場合については、一般的・慣用的な読みだけでなく、個性的な読みの規則性を学習することが挙げられる。そして、可能な読みが複数あり、どれが正しい読みか分からない場合については、事前情報を可能な限り参照することを挙げた。しかし、様々な読み方の規則性を学習すればするほど、可能な読みの選択肢が増えることになり、その中のどれが正しい読みか推測することが確率的により困難になるというジレンマがある。名前を正しく読むために、新しい読み方の規則性を学んだり、様々なバリエーションを理解すればするほど、その複数の可能性から正しい読みを選択する難しさが増加してしまう。いずれにせよ、読みがなやふりがなが明記されていない状態では、名前を正しく読むことの難しさを解消することは困難と言える。

引用文献

- 法務省 (2022). 法制審議会戸籍法部会第2回会議 (令和4年1月13日開催) https://www.moj.go.jp/shingi1/koseki20220113_00001.html
- 小林康正 (2009). 名づけの世相史「個性的な名前」をフィールドワーク 風響社
- 萩原祐二 (2015). 近年の日本における個性的な名前の特徴とその類型 人間環境学研究, 13(2), 177-183. <https://doi.org/10.4189/shes.13.177>

- Ogihara, Y. (2021a). Direct evidence of the increase in unique names in Japan: The rise of individualism. *Current Research in Behavioral Sciences*, 2, 100056. <https://doi.org/10.1016/j.crbeha.2021.100056>
- Ogihara, Y. (2021b). How to read uncommon names in present-day Japan: A guide for non-native Japanese speakers. *Frontiers in Communication*, 6, 631907. <https://doi.org/10.3389/fcomm.2021.631907>
- Ogihara, Y. (2021c). I know the name well, but cannot read it correctly: Difficulties in reading recent Japanese names. *Humanities and Social Sciences Communications*, 8, 151. <https://doi.org/10.1057/s41599-021-00810-0>
- Ogihara, Y. (2022a). Common names decreased in Japan: Further evidence of an increase in individualism. *Experimental Results*, 3, e5. <https://doi.org/10.1017/exp.2021.27>
- Ogihara, Y. (2022b). Further explanations for difficulties in reading recent Japanese names correctly. *Frontiers in Education*, 6, 799119. <https://doi.org/10.3389/educ.2021.799119>
- Ogihara, Y., Fujita, H., Tominaga, H., Ishigaki, S., Kashimoto, T., Takahashi, A., Toyohara, K., & Uchida, Y. (2015). Are common names becoming less common? The rise in uniqueness and individualism in Japan. *Frontiers in Psychology*, 6, 1490. <https://doi.org/10.3389/fpsyg.2015.01490>
- Ogihara, Y., & Ito, A. (2022). Unique names increased in Japan over 40 years: Baby names published in municipality newsletters show a rise in individualism, 1979-2018. *Current Research in Ecological and Social Psychology*, 3, 100046. <https://doi.org/10.1016/j.cresp.2022.100046>
- 大藤修 (2012). 日本人の姓・苗字・名前一人名に刻まれた歴史 吉川弘文館
- 坂田聡 (2006). 苗字と名前の歴史 吉川弘文館
- 佐藤稔 (2007). 読みにくい名前はなぜ増えたか 吉川弘文館